

次世代交通ビジョンおきなわ（仮称）

ステップ0・1の進め方 補足資料

主な指摘と対応

	主なご指摘	対応方針	該当ページ
名称	・名称はなぜ「次世代公共交通ビジョン」ではないのか。【澤委員】	・公共交通に限らない幅広いビジョンである。	
対象エリア	・島しょは島の中だけか。空や海は対象外か。【當山委員】	・陸上交通のみが対象である。	
プロセス	・欧州型SUMPを踏襲するのではなく、沖縄固有の状況を考慮すべき。【福田委員】	・計画検討手法の部分でSUMPを参考にしているが、沖縄固有の状況は十分に踏まえて対応する。	
	・「技術検討プロセス」という表現は使用しない方がよい。【福田委員】	・「技術検討プロセス」という表現は使用しない。	
	・地域別の検討結果が、全県に影響することも考慮すべき。【安藤委員】	・ステップ2以降の地域別の検討を踏まえて、全県のあり方に反映する。	
シナリオ	・SUMPに従えば、シナリオ検討を中心とした進め方にすべきでは。【石垣委員】 ・自動車中心社会、公共交通中心社会など回答者が想定する状況が異なるで、状況がそろそろような聞き方をしてはどうか。【安藤委員】	・シナリオ検討はステップ2で実施することを再確認。ステップ1の意見把握は、ステップ2につなげる前段の、課題と未来像の整理までとする。	P2、3
多様なステークホルダーの巻き込み	・高専生など、属性を絞ってピンポイントで意見を聞くとよい。【石垣委員】 ・高齢者が求めている移動サービス、観光交通を捌く視点等が重要。【澤委員】 ・若者の参画が広がるとよい。【安藤委員】 ・属性別の意見把握は行った方がよい。【神谷座長】	・昨年度の大学生・高校生・移動困難者の意見把握の結果を活用するとともに、主要なステークホルダーに対するヒアリングを検討する。 ・県関係部局との意見交換も踏まえつつ整理する。	P5～7
問いかけ	・ビジョンや進め方を問う質問が抽象的でわかりづらい。【石垣委員】	・ご指摘をふまえて問いかけを修正する。	P4
オープンハウスの会場	・ショッピングセンターだけか。公共交通利用者に尋ねなくてよいか。【澤委員】 ・車利用者限定されないようにすべき。【福田委員】 ・多様な人の意見を収集できる場所にすべき。【安藤委員】 ・広く周知する意味でショッピングセンターで実施する意味はある。【神谷座長】	・ショッピングセンターを中心としつつ、バスターミナルとモノレール駅(てだこ浦西駅・旭橋駅(バスター同時開催))での追加実施する。	
オープンハウスパネル	・統計の結果を見せても自分事として捉えづらいため工夫が必要。【福田委員】 ・車が増えると駐車場が増えることがわかる写真を使用しては。【神谷座長】	・他地域との比較、写真の活用など工夫する。	
	・将来の高齢化の状況がわかるメッシュ人口図を掲載しては。【石垣委員】	・将来の高齢者のメッシュ人口図を追加する。	
	・パネルは、ビジョンの説明からではわかりにくいのでは。【安藤委員】	・パネル展示の順番を工夫する。	
アンケート	・アンケートの狙いや目的を整理して修正する必要がある。【當山委員】 ・属性情報等を捉える等しないと分析しても使えないのでは。【福田委員】 ・バス利用者モニターへの呼びかけを活用しては。【澤委員】	・オープンハウスの意見収集を幅広く実施する手段であり、表現を「Web投稿フォーム」に改める。呼びかけは幅広く実施できるよう検討する。	P5
手法	・参加者が深く考えることが可能なワークショップが向いている。【福田委員】	・ステップ2からワークショップで検討を深める。	

検討のステップ

検討の内容

令和7年度

ステップ0 検討の進め方

- ・次世代交通ビジョンおきなわ（仮称）の策定に向けた検討のプロセスを設計する。

ステップ1 現状と課題を踏まえた 沖縄が目指す未来像

- ・県民生活において大切にすべきことと、その実現のために交通が果たすべき役割を設定する。
- ・このために、沖縄の交通の現状や、将来の変化が生じた場合の交通への影響等を検討する。

シナリオ比較をする際の視点を抽出する

令和8年度

ステップ2 地域ごとの交通のあり方

- ・地域ごとに、交通手段の適切な組み合わせのシナリオ比較を通じて、将来の交通のあり方を検討する。

シナリオ検討はこの段階

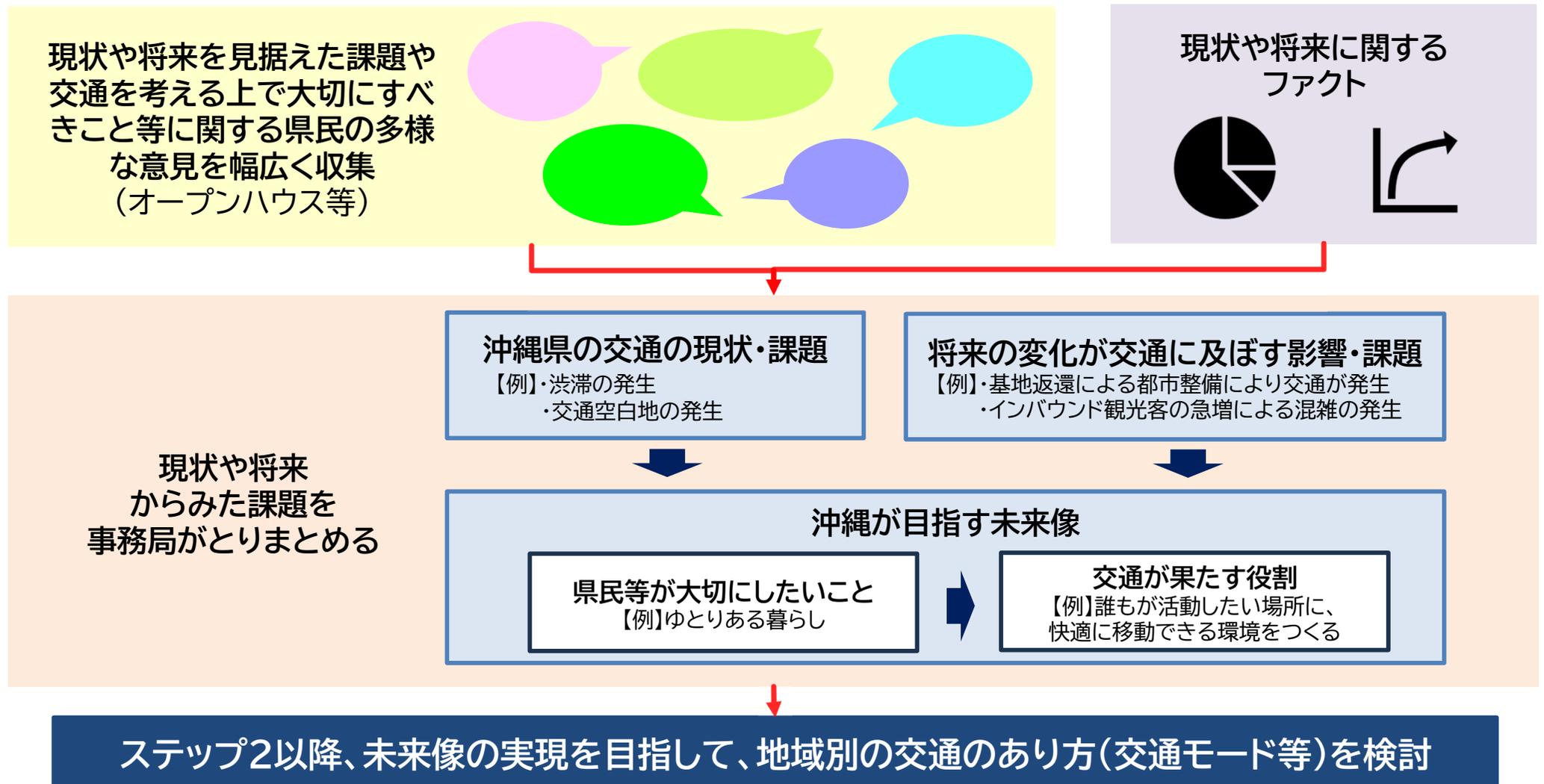
ステップ3 地域ごとの取組の方向性

- ・具体的に実施すべき取組のパッケージを検討する。

ステップ0・1における県民参画の目的

- ① 次世代交通ビジョン沖縄（仮称）の**取組を広く県民に周知**する
- ② 交通をとりまく現状、課題、目指すべき未来像に関する**県民等の意見を幅広く収集**する

ステップ0・1の検討の流れ



ステップ0・1のアウトプット

問いかけ

沖縄県の交通の
現状・課題

交通政策のこれまで

①これまで整備が進められてきた道路やモノレールによって、皆さんの生活はどのように変わりましたか？また、生活の変化が皆さんの生活や沖縄全体に、どのようなメリットがありましたか？

現状の交通からみた課題

②日々の交通混雑に悩まされつつも、自家用車がないと暮らしていけない状況があります。日常生活に欠かせない「移動」について、皆さんは日頃、どのような不便や不安を感じていますか？また、そのような不便や不安は、どんなことが原因だと思いますか？

将来の変化が交通に及ぼす影響・
課題

将来の交通からみた課題

③今のような交通の問題が今後も長く続くとしたら、沖縄の社会や将来世代の生活にどのような影響があると思いますか？また、将来の世代が失ってしまうのではないかと心配になることはありますか？

④今後、社会情勢が大きく変化した場合、将来の生活や移動にどのような効果や影響が生じるでしょうか？

沖縄が目指す
未来像

県民等が大切にしたいこと
交通が果たす役割

交通を考える上で大切にすべきこと

⑤ご自分の将来や、これからの世代にとって、大切にしたいことは何ですか？そのために、どのような移動のしかたができるとういと思いますか？

進め方

進め方

⑥ビジョンの検討の「進め方」について、心配な点はありますか？みなさんが参加しやすくなるように、どのような工夫があるといいと思いますか？（例えば、いつ・どこで・誰の意見を聞くとよいか、など）

目的

用いる県民参画ツールとそのねらい

ステップ0 検討の進め方

ステップ1 現状と課題を踏まえた 沖縄が目指す未来像

- ・広く県民に**取組を周知**
- ・シナリオ検討を行う材料として、交通をとりまく現状、課題、目指すべき未来像に関する**意見を幅広く収集**

①オープンハウス

- ・人が集まる場所に出向き、取組を幅広くPRするとともに、幅広い属性の意見を収集する

②ホームページ+Web投稿フォーム

- ・誰もが情報を取得し、意見することができるように、ビジョンに関する情報提供するホームページを開設し、Web投稿フォームを設ける
- ・SNS等を活用した意見投稿呼びかけも検討

③ステークホルダーヒアリング

- ・より幅広い主体の意見を捉えるために、ステークホルダーを想定し、それらに対するヒアリング等を通じて意見を収集する

<参考> ステップ2以降は現時点での想定

ステップ2 地域ごとの交通のあり方

- ・**地域ごとに**、交通手段の適切な組み合わせの**シナリオに関する意見を収集**

①ワークショップ

- ・各地域の特性を踏まえた交通手段の組み合わせシナリオを検討するため、より深い意見交換が可能なワークショップを設置する。

②オープンハウス

- ・取組の継続的PRの場として活用

③ホームページ+Web投稿フォーム

- ・取組の継続的PRと幅広い意見収集の手段として用意

ステップ3 地域ごとの取組の方向性

- ・**地域ごとに**、有効と考えられる**取組のアイデアに関する意見を収集**

1. 令和6年度の事業概要について

参考:R6年度ヒアリング先・趣旨

(1) 事業のねらい

- 国が進める沖縄リ・デザインの取組と連携し、本年度は本島全域で**大学生や高校生等へのワークショップ・アンケート、移動困難者へのヒアリング・アンケートを実施し、多くのペルソナ※の声が反映された『県民等が望む移動・交通の姿』(暫定版)**を取りまとめる。
- **次年度以降、本事業を発展的に推進し『県民等が望む移動・交通の姿』を取りまとめ、R8年度の具体的な実証実験等に繋げることで、沖縄県地域公共交通計画の実現に寄与する公共交通施策の推進を目指す。**

※具体的あるいは典型的な人物像の意、スペイン語では人や人格、ラテン語では仮面

(2) 事業の実施概要

大学生等へのワークショップ

これからの沖縄社会を担う学生世代を対象に、**各圏域での日常生活や様々なペルソナも意識**した中で、県民等が望む移動・交通の姿を探るための**ワークショップ**を実施

対象

- 【北部圏】 名桜大学国際学部 約30名
 沖縄高専 約80名
- 【中部圏】 琉球大学国際地域創造学部 約110名
- 【南部圏】 沖縄大学経法商学部 約110名

合計 約330名

※各WS 2回の延べ人数、傍聴学生含む

高校生等へのアンケート・ワークショップ

全県立高校の生徒・保護者を対象に、日常生活での**通学に着目し、通学に必要な交通や送迎に関するアンケート**を実施

対象

- 全県立高校51校（全日制在校生約3.6万人）の約4割弱の高校生と保護者から回答
- 高校生 約13,300名
- 保護者約 2,200名

※県立高校数と生徒数はR6沖縄県学校基本統計速報より

+

送迎交通による渋滞への影響が顕著な中部圏、南部圏の高校を対象に、望む移動・交通の姿を探るためのワークショップを実施

対象

- 【中部圏】 普天間高校 約30名
- 【南部圏】 浦添高校 約30名

移動困難者等へのヒアリング・アンケート

様々な移動困難者（高齢者、若年妊産婦、一般妊産婦、身体障がい者）からみた、県民等が望む移動・交通の姿を探ることを目的に、**ヒアリング・アンケート**を実施

対象

○ヒアリング

- 【北部圏】 高齢者 約20名
- 【中部圏】 若年妊産婦 約10名
- 【南部圏】 身体障がい者 約30名

※各団体イベント、施設来訪者に協力依頼

○アンケート

- 【中部圏】 一般妊産婦約170名

※自治体での定期健康診断時等に協力依頼

1. 令和6年度の事業概要について

参考: R6年度ヒアリング内容

(3) 事業の実施内容

大学生等へのワークショップ

◆ワークショップの実施概要 ※参加者数は延べ人数

実施校	実施日	参加者数
名桜大学 国際学部	R6.10.29	約30名
	R6.12.24	
沖縄高専	R6.10.11	約80名
	R6.12.12	
琉球大学 国際地域創造学部	R6.10.9	約110名
	R6.12.18	
沖縄大学 経法商学部	R6.10.7	約110名
	R6.12.6	

基本的な実施構成（成果は学生等が発表）

様々なペルソナの立場でワークショップを実施
1.小・中学生、2.高校・大学生、3.就業者、
4.子育て世代、5.移動困難者、6.高齢者、7.観光客

沖縄の移動・交通に関する現状等の話題提供

1.日常生活での移動や交通で困っていることは何か

2.どんな移動や交通があると助かるか

3.フィールドワークを通して新たな気づきを感じてみる

4.誰がどんなアクションをすべきかを考える

※上記は基本的な構成であり、大学等により構成は異なる

高校生等へのアンケート・ワークショップ

◆アンケートの実施概要

	実施日	回答者数
県立高校 ※本島内の全日制全県立高校51校		
生徒	R6.10月～12月	約13,300名
保護者	R6.10月～12月	約2,200名

アンケートの主な構成

- 【生徒】
- 1.居住地、通学方法、送迎頻度等について
 - 2.家族による送迎習慣や送迎について感じることにについて
 - 3.送迎から他手段に変更するための問題点等について
- 【保護者】
- 1.こどもを送迎している理由
 - 2.送迎から他手段に変更するための問題点等について
 - 3.既存通学支援策等に対する意見

◆ワークショップの実施概要

実施校	実施日	参加者数
浦添高校	R6.12.12	約30名
普天間高校	R6.12.18	約30名

基本的な実施構成（成果は生徒が発表）

沖縄の移動・交通に関する現状等の話題提供

1.高校通学で困っていることは何か

2.どんな移動や交通があると助かるか

3.誰がどんなアクションをすべきかを考える

移動困難者等へのヒアリング・アンケート

◆ヒアリングの実施概要

実施対象	実施日	参加者数
高齢者	R6.11.20	約20名
若年妊産婦	R6.11.7 R6.11.13	約10名
身体障がい者	R6.11.22	約30名

※名護市老人クラブ連合会ゲートボール大会参加者に協力依頼
※沖縄市、うるま市の居場所来訪者に協力依頼
※那覇市身体害者福祉協会来訪者に協力依頼

ヒアリングの主な構成

- 1.個人や家族、車の運転等について
- 2.普段の暮らしとそのため移動について
- 3.移動や交通に対して“こうあって欲しいという”希望

◆アンケートの実施概要

	実施日	回答者数
一般妊産婦	R6.10月～12月	約170名

※沖縄市、うるま市の妊産婦に、出征届時、母子手帳交付時、個別支援員家庭訪問時、定期健康診断（10～12月）等に協力依頼

アンケートの主な構成

- 1.個人や家族、車の運転等について
- 2.普段の暮らしとそのため移動について
- 3.移動や交通に対して“こうあって欲しいという”希望
- 4.妊産婦タクシー等の利用やニーズについて